COSO 内部統制設計チェックシート（5 要素対応）

Money Forward クラウド

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年11月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

COSO 内部統制設計チェックシート（5 要素対応版）

COSOの内部統制フレームワーク概要

COSOの内部統制フレームワークとは

COSO（コソー）とは、「トレッドウェイ委員会支援組織委員会（The Committee of Sponsoring Organizations）」の略称です。1970年代からの粉飾決算や不正な財務報告問題を背景に、1985年に設立されました。

このCOSOが公表した「内部統制フレームワーク」は、組織が内部統制を有効かつ効率的に整備・運用するための世界標準の枠組みです。

COSOは内部統制を「業務、報告、コンプライアンスに関する目的達成を合理的に保証するプロセス」と定義し、以下の5つの構成要素を提示しています。

1. 統制環境 (Control Environment)

組織全体で内部統制を実行するための基礎となる要素です。組織の誠実性や倫理観、取締役会による監督、適切な組織構造の確立などが含まれます。

2. リスク評価 (Risk Assessment)

目的の達成に関連するリスク（不正の可能性を含む）を識別し、評価するための要素です。

COSO 内部統制設計チェックシート（5 要素対応版）

COSOの内部統制フレームワーク概要

3. 統制活動 (Control Activities)

リスクを許容可能な水準まで低減するための仕組み（方針や手続）を構築・実行する要素です。

4. 情報と伝達 (Information and Communication)

内部統制の機能に必要な、関連性のある質の高い情報を入手・作成し、組織の内部・外部へ正確に伝達する要素です。

5. モニタリング (Monitoring Activities)

内部統制の5つの構成要素が存在し、機能しているかを確かめ、不備を評価・伝達するための要素です。

COSO 内部統制設計チェックシート（ 5 要素対応版）

COSOの内部統制設計チェックシート（5要素対応版）

内部統制の設計状況を、COSOの5要素に基づき確認します。

構成要素	チェック項目 （記事の原則・活用例に基づく）	評価 (Y/N/P)	コメント・改善点
1.統制環境	組織の誠実性と倫理観（行動規範など）は明確に示され、全従業員に周知されているか？	□Y □N □P	例：研修が不足している
2.リスク評価	目的達成を阻害するリスク（不正の可能性を含む）を識別し、分析するプロセスは整備されているか？	□Y □N □P	例：リスクの洗い出しが不十分
3.統制活動	識別されたリスクを低減するための具体的な統制活動（方針や手続）が整備・実行されているか？	□Y □N □P	例：承認プロセスが形骸化
4.情報と伝達	内部統制の目的と各自の責任は、組織内部（経営者から従業員まで）に適切に伝達されているか？	□Y □N □P	例：経営層のメッセージが届いていない
5.モニタリング	内部統制の不備を発見・評価し、上層部へ伝達・是正するプロセスは整備・運用されているか？	□Y □N □P	例：内部監査の指摘が改善されない